

プロジェクトリーダー：金城学院大学 生活環境学部 北森一哉教授

事業実績調書

(1) プロジェクト名	小学生の健康状態の実態把握と改善に向けた取組
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	<p>前回の調査において瀬戸市学童期生活習慣病対策事業の一環として児童の健康状態を評価した。肥満評価のみでは、普通と判定される児童が9割であった。しかし、血液検査では基準値範囲内の児童は、肥満評価で普通と判定された中の約半数しかいなかった。肥満度評価だけでは、不十分であり、血液検査の重要性が明らかとなった。しかし、何をどれだけ食べたかは明らかにされていなかったため、今回は食事調査を行った。また、食育実施を計画した。</p> <p>エネルギー摂取と消費のバランスが適切である児童比率が高かった。しかし、たんぱく質 (P)・脂質 (F)・炭水化物 (C) のエネルギー比率は偏っていた。これらのことから、生活習慣病発症予防の観点から、PFCのエネルギー比率を適正範囲内に近づけるようにしていくことが望まれた。</p> <p>食塩の取り過ぎている児童の割合が高かった。食塩を体外へ排出するカリウム、食物繊維の摂取の割合が少なく、野菜摂取不足の児童が多いと考えられた。</p> <p>また、カルシウム・鉄が不足している児童の割合が高かった。成長期に欠かせない栄養素であることから、不足している者を少なくする必要があると考えられた。</p> <p>何をどれだけ摂取しているかの現状が把握できた。食生活改善の計画策定のための基礎的データとなった。</p>
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	<p>6月に打合せを実施し、7月8月に準備した。対象者は、瀬戸市小学5年生(2021年度)185名(男子100名女子85名)とした。</p> <p>食事調査は、簡易型自記式食事歴法質問票小中高生用(BDHQ15y)を用いた。質問票の配布・回収、結果票の配布は健康課(母子保健係)とし、大学側は個人情報を取り扱わないよう配慮した。</p> <p>9月に食事調査票を配布し、10月に食事調査票回収した。</p> <p>食事調査票の配布時には、記入ミスが減らすため間違いやすい箇所を説明した用紙を共に配布した。結果票は、今後の食生活に活用いただけるように、各個人にお返しした。</p> <p>食教育の実施は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、実施できなかった。</p> <p>全ての解析は、IBM SPSS Statics 27.0を使用し、有意水準は5%とした。</p> <p>金城学院大学ヒトを対象とする研究に関する倫理審査委員会の承認を得て解析を実施した。</p>
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	<p>地域差、性差等の詳細は分析中である。調査人数が少なく、人数を増加することが望まれる。</p> <p>血液検査と食事調査の対象者が同一でないため、血液検査と食事調査の結果を個人として対応することができない。</p> <p>小学生に対する食育は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため実施できなかった。</p>